

・・・日頃から備えを・・・

逗子市の現在の災害備蓄食品は人口58,000人に対し、①アルファ米12,650食②保存用ビスケット56,460食③飲料水51,840ℓとなっており、残念ながら住民全員に行き届く程の備蓄量ではありません。

台風15号と直近で19号の首都圏直撃の台風が来襲、東日本・東北各地に被害が及び、逗子・葉山でも豪雨、強風による冠水、家屋の損壊、停電等の被害を受けた地域がありました。

日本は災害立国と言われ台風以外にも地震、津波のリスクに常に晒されています。日頃から災害に備え避難場所、避難路の確認、ハザードマップによる危険地域の確認、災害時の非常食の各家での確保等、日頃の備えの重要性を再認識する今日この頃です。

令和元年10月度役員会

令和元年10月5日（土）13:30～16:00 久木会館で23名（うち役員16名）が参加して開催さ

れました。主な議題は以下の通りです。

(1)事務局からの連絡

①「空き家対策に関する行政課題研修会」（10/3開催）

行政内部を対象とした研修会に住民協に参加要請があったもの。空き家の発生理由等概観的な解説があったが、市のまちづくり景観課内に設置された「空き家バンク」の繋がる有効な方策等についてはこれからの課題であるとの事。

②「逗子市住民協議会連絡会」について（10/4、市民協働課主催）

隔月に開催される定例会で、各住民協との間で情報交換を行った。住民自治協議会のコンセプトを市会議員、地域住民に理解してもらう必要性について議論があり、手段として広報の掲載等の提案があった。

③「みんなの食堂」9月度の結果報告

9/20日（土）久木会館にて「みんなの食堂」を

開催した旨報告があった。当日は「みんなの食堂」の後、ラグビーW/C日本戦のパブリックビューイングがあり、沼間小学校の先生によるラグビーの解説が実施され、そちらにも参加する人が多かったとの報告があった。また、今月はスペイン特集して、ギター演奏なども企画している由。

④パブリックビューイング/ラグビーW/C日本戦実施報告（9/20,9/28）

プロジェクター立ち上げに当初若干の労費が掛かったが、以降自前で対応50名から70名の参加があり、大いに盛り上がり、普段久木会館に縁のない人たちも多く来場、会館/住民協の広報活動としても効果が大。また今回の機器の手当により、今後映画会、カラオケ等企画対応も可能となった。

(2)審議事項

①会員動向の件

事務局より新規3名に付き諮問があり、本役員会にて承認された。

②「久木会館活性化プロジェクト」Phase2について

phase1としては、10月が最終。数々の提案を纏め成果を上げた。あと3か月を掛けて見えて来た組織運営基盤の強化等を行いPhase2としてより高みを目指す。

③各部会代表からの現況報告、全体への協力要請事項等

ふれあい部会：ふれあいサービスに関し、山の根地区で、65歳以上を対象としたニーズアンケートを開始した旨報告。アンケートに伴って発生した封筒費用などは住民協のパイロットプロジェクトとして実施するので、住民協予算から支出することが承認された。

こども部会：10月から、久木小学校校前に、交通整理員が復活した、今までボランティアで見守りをしてくれた人達は、聖和学院前の十字路で引き続き活動の由。

減災部会：街歩きによる詳細防災地図づくりの活動は、久木1,2,3,7丁目、山の根地区は9月末までに終了した。10/19に久木4丁目を実

施予定。残る、久木5,6,9丁目、ハイランド地区も11月までには終了させたいとの報告。

拠点部会：12月から、予約の単位が2時間単位に変更されるので、利用者、会館当番などに周知徹底を図る旨報告された。また、震災時、会館が避難所として利用されることが決定、利用方法に付き、今後関係各部署と協議したいとの申し出があった。一方パブリックビューングの実施に伴う費用に関し、会館予算から支出するのか、住民協予算から支出するのかについては、別途事務局と拠点部会長とで調整することとなった。

④中間期会計状況について

添付資料に基づいて、半期の会計実績、通期予測が報告された。

⑤A.住民協ひろば編集状況確認

最終校了：10月12日

朝日新聞への搬入10月26日14時（搬入部数5,400）

B.山の根踏切閉鎖の件

標記の件につき、10月15日に市長から、また10月27日にJRから、住民説明会が催される旨報告された。

部会報告

ふれあい部会報告 龍村敦子

アンケートと今後のスケジュールの報告とその後購入したアンケート配布用の封筒代金の出金を住民協会計で出してよいかの確認をした。現在は山の根自治会のみで行うアンケートであるが住民協ふれあい部会ふれあいサービスを進めることにつながるアンケートであるという認識のもと実施したのであるから住民協からの支出でよいと思われる、しかし今後はコーディネート費用などへ進展することもあるので、10月の住民協役員会ではかることと

なった。ふれあいサービス実践が始まる前からおおよその想定はされていたことではあるが、このサービスの捉え方が部会の委員だけではなく自治会町内会は言うに及ばず久小全地区にひろげていくには相当なエネルギーと時間を要することがさらに確認された。しかし、やり続けようとしているのは部員全員が全く同じ足場ではないにしても、いつまでも住み続けたい地域の物語を描いているからのように思える。 9月25日

トピックス

山の根踏切・・・

山の根踏切は逗子駅から四百メートル程東にある踏切です。江戸の昔からこの近くを逗子の中心部に位置する今の亀ヶ岡八幡宮から山の根・池子・金沢方面に向かう主要道路が通っていました。(上の地図の中央部分を左下から右上に通っている道路、明治15年測量の参謀本部作成の迅速測図))明治22年に横須賀線が通るようになり、交差するところに踏切が出来ました。

(下の地図、明治20年代測量の陸地測量部作成地図)

大正に入り横須賀線の北側に逗子駅の手前まで県道が出来ました。そしてその後、斜めに通っていた踏切を直角に直して今の位置に新しく作られました。

地図からわかることは、鉄道の開通により一体であった地域が見事に分断され、そして踏切は分断された南と北で、人々が直接つながる唯一の接点として残されたこと、この路が江戸の昔から昭和の初めまで、住民の生活を支えてきた重要な道路であったことです。



この踏切で最近不幸な事故が発生して、安全性の視点からその存続が議論されようとしています。分断した地域をつなげる接点としての踏切というものを存続させる努力は、事業者の責務ともいえることでしょう。その上で、安全といえる構造の踏切であったのかを良く検証することが第一です。踏切の歴史的な経緯、数少ない生活や交流を支える関所であること、そして近年では減災の避難路としての配慮も、踏切を考える重要な視点です。

山の根在住 鈴木 為 之

ノウサギを飲み込む青大将・・・

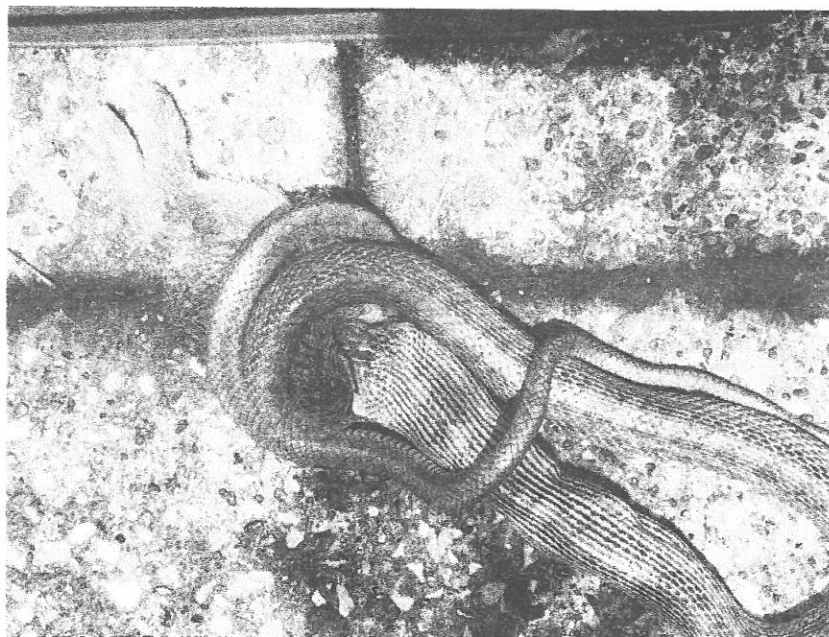
これは生涯二度と会えないような珍しい写真なので、紹介しておきます。撮影された方は山の根在の大久保さん、時期は5月末、次のコメントを頂きました。

『「すぐ来て、すごいよ!」と言う息子の声に家の前の道路に出たところ、目に入ったのがこの情景でした。自分の頭よりもはるかに大きい何かを呑み込み始めたヘビ。ヘビの胴の直径は3センチほど、そして呑まれている動物はその3~4倍の太さがありました。口があまりに大きく開いて獲物を呑んでいるために、頭は小さく先の方についているように見えます。ヘビの口から出ている動物の脚はしっかりした立派な後脚で、柔らかそうな茶色の毛に覆われていました。ノウサギなのではないかと思っています。残酷なシーンではあるのですが、大きな獲物を呑み込もうとしているヘビの迫力に圧倒されました。

車に轢かれぬようにと、ご近所の方がポールで目印を立てて下さいました。』

場所は、山の根2丁目の谷戸の中
の住宅地で、前面はすぐ山に続く
道路上です。久木の市民農園では
ノウサギの被害を受けている話
は聞きますが、住宅地に近い樹木
に覆われた山にノウサギが生活
していたとは意外であり、数倍も
大きいノウサギを蛇が飲み込ん
でしまうとは驚きです。

山の根在住 鈴木 為 之



編集後記

久木会館活性化の新しい試みとして9月20日よりラグビーワールドカップのパブリック
ビューイング(PV)を行った。全日本の快進撃に乗って予選リーグ全4試合PVは毎回60~
名の方々が来館、試合開始時は参加者全員で起立し「君が代」斉唱、試合が始まると「ニッポン、
チャチャチャ」の合言葉と手拍子、日本がトライを挙げると全員大歓声、知らない人同士がグータ
ッチにハイタッチ、会場は大いに盛り上がり参加者の方々に帰り際、感謝の言葉を頂いた。参加さ
れた方々の多くは従来久木会館を利用されていない方が大半で会館の新しい利用企画は成功理に
終わった。来年は東京五輪PVの参加層を拡大し皆でスポーツを堪能したい。また、大画面、大音
響での映画会等の新しい利用者層の拡大と同好のコミュニティーの育成を図り度い。

事務局長 石井 達郎



アイルランド
戦勝利の後